

是彼會員

中東噺

イランと「おしん」

牛木久雄（会員）

昨年（2021年）インターネットで中東イスラーム情報を探っていたら、朝ドラ「おしん」の話題を見つけた。「おしん」の人氣がイラン社会に大きな印を残したと言うのである。それが「タナクラ・バザール（タナクラ市場）」だと言う。



タナクラ・バザールの看板
(A. Shams, 2021)

「タナクラ・バザール」は、ペルシャ語で「市場」あるいは「商店街」を意味する。「タナクラ」は、「おしん」の姓「田倉（たのくら）」がペルシャ語訛りで転記された結果である。上図は、「タナクラ・バザール」の看板で、ペルシャ語で「輸入品専門 タナクラ・バザール 電話・ファックス***」と書かれている。

一・「タナクラ・バザール」とは

この新種の店が登場したのは、イランで「おしん」が放映された1986年で、この年、イラ

ン国営テレビから毎週土曜日夜の連続テレビ・ドラマとして「おしん」が始まった。「おしん」は、たちまち大人気となり、夜9時の放映時間になると、いつもなら夜の客で賑わう繁華街が空っぽになった。中東の街に、「おしん」は大異変を起こしたのである。イラン国民の八九%が「おしん」を観たと言われている。当時、イランのテレビ普及率がイラン・イラク戦争前の二〇%台から、八〇%台に増大したことも、タイミングとして効いたのだろう。

二・「タナクラ・バザール」登場の背景

「タナクラ・バザール」登場の時代は、1980年9月に勃発したイラン・イラク戦争の終盤の頃で、戦死者は既に一〇万人を突破し、七五万人に近づい

ていた。太平洋戦争の日本の戦死者二三〇万人には及ばぬまでも、当時のイランの人口が約五〇〇〇万人であることを考えると深刻な数である。銃後を守るイランの妻たちは厳しい生活を強いられたが、「おしん」が戦争に翻弄され何度も挫折しながら、そのつど立ち直り、ついに夜店の古着屋で成功するのを見て感動した。彼女たちは「おしん」の粘り強さと起業精神に励まされ、当時求められていた格安衣料品の古着販売に進出した。その結果、「タノクラ」タナクラ」を冠する古着店を始めたのである。

最初の「タナクラ・バザール」は、イラン西部クルディスタン地方に登場した。それは、トルコ国境のウルミエ湖地方、マハーバード市で、国境越しに担ぎ屋が持ち込む密輸品や、輸入古着を扱った。「タナクラ・バザール」は、たちまちテヘランをはじめガズヴィーン、マッシュハドなど全国主要都市に広がった。「タナクラ・バザール」は、現在では、古着やセコハン商売、格安輸入衣料品を扱う店の一般



▶バザールのアーケードと屋台◀



的名称である。

伊朗と日本の関係は、奈良正倉院のシルクロード由来御物にさかのぼる古さであるが、伊朗と日本の外交は、明治政府

の使節がカザール朝伊朗の皇帝ナスレッディン・シャーを孝敬した1880年に始まる。この使節はロシア帝国の首都サンクトペテルブルクに赴く途上、伊朗に立ち寄ったのであった。

その後の日本の発展に刮目した伊朗は、日本を東洋近代化のモデルとした。1930年代には日本は伊朗の主要貿易相手国となった。パハレヴィー朝時代になると「西アジアの日本」を目指して伊朗は工業化を進め、1970年代にはインド洋での覇権を目指すまでになった。イスラーム革命が起こりホメイニ体制になってからは、ラフサンジャニ元大統領が提唱した「イスラームの日本」が伊朗の目標となった。

三. 中東における「おしん」現象

ホメイニ革命は外国映画を禁止したが、「おしん」は、緩和後の許可作品である。放映時のペルシャ語タイトルは「故郷を離れた日々」であった。その後、伊朗では「おしん」を皮切りに、韓国映画、インド映画、

欧米の名画が次々と許可された。「おしん」によって、伊朗における美人観も変わった。欧米風の金髪碧眼から、東洋風の丸顔でアーモンド形の黒い眼になり、「おしん」の髪型が流行して、「オシニー＝おしん風」と呼ばれるようにさえなった。

1989年の視聴者電話参加番組では、「イラン人にとって理想の女性は誰か?」という問いに対し、イスラーム史上の有名な女性に加え、「おしんである」という回答が寄せられた。

パハレヴィー朝イラン帝国を打倒したイスラーム革命によって、伊朗では女性抑圧が強化されたと捉えられがちである。確かに服装に関する規制は厳しく、公的施設には、必ず「イスラームの服装規定順守なき女性の立ち入りを禁止する」の表示があり、街頭で女性の服装を監視する当局との悶着も報じられる。しかし、この種の常識とは異なり、女性の権利は大きく拡大されている。革命以前のパハレヴィー時代は、イスラーム法に従って女性の離婚権はなかったが、革命イラン議会は女性議

員によってこれを廃止し、「三下り半」の時代は終了した。茶屋や食堂での女性隔離コーナー強制もなくなり、革命後はモスクでも、女性が大っぴらに集まるようになった。これに影響され、イスラーム各国の女権拡大運動が活発化し現在に及んでいる。

伊朗は、ホメイニ革命の海外展開や、革命防衛隊の軍事進出、イスラエルに対抗するためとされる核開発問題などで、現代国際政治では無視できない地位を占めるようになった。中東は、パレスチナ問題が中心だった従来の構造から、アラブ対ペルシャ(イラン)の対立に移行する趨勢である。この対立構造では、なんとイスラエルがアラブ側に立っている。激動の中東を注意深く観察し、いっそうの理解に努めなければならぬ。

(注)

Alex Shams, 2021, University of Chicago, "Tanakura Bazaar: The Iranian Legacy of Beloved Japanese Soap Opera Oshin"